

VLED 第2回データ運用検討分科会

議事録

1. 日時 平成30年1月30日(火) 17:00-19:00
2. 場所 三菱総合研究所 4F 大会議室 A
3. 出席者(敬称略)
 - 有識者(主査)：大向一輝(国立情報学研究所 准教授)
 - 社員：日立製作所
 - オブザーバー：総務省、内閣官房 IT 総合戦略室
 - 自治体：静岡市、福井県、室蘭市、掛川市、福岡市、広島市、新潟県
 - 企業等：日本観光振興協会、ジオルテ、オープンコーポレイツジャパン、ヤフー、アスコエパートナーズ、国際航業
 - 事務局：三菱総合研究所
4. 資料
 - 資料1. 参加者リスト
 - 資料2. 総務省資料
 - 資料3. 給付金情報の前回振り返り
 - 参考. オープンガバメント推進協議会の給付金情報フォーマット
 - 資料4. 給付金情報のデータフォーマット事例
 - 資料5. 給付金情報のディスカッション論点例
 - 資料6. 行政イベント情報の前回振り返り
 - 資料7. 行政イベント情報のデータフォーマット事例
 - 資料8-1. 静岡市発表資料(市民活動イベントAPI提供について)
 - 資料8-2. 静岡市発表資料(大型イベントAPI提供について)
 - 資料8-3. ヤフー発表資料(静岡市APIを用いた取組みについて)
 - 資料9. 掛川市発表資料
 - 資料10. OCJ発表資料
 - 資料11. 行政イベント情報のディスカッション論点例
 - 資料12. VLED自治体会員向けアンケート案
5. 議題
 1. 総務省ご挨拶
 2. 給付金情報について
 - ・ 前回の振り返り(室蘭市・Zaim)
 - ・ データフォーマット事例の整理状況について

- ・ オープンガバメント推進協議会フォーマットに対するご意見
 - ・ オープンガバメント推進協議会フォーマットの普及方策について
 - ・ 給付金情報の活用拡大方策について
3. 行政イベント情報について
- ・ 前回の振り返り（IMI 及び支援制度 DB・日本観光振興協会・ジオルテ・BODIK）
 - ・ 公開事例の紹介
 - 静岡市（市民協働サイト・しずみち info、API 提供）
 - 掛川市（かけっこ、官民共同での情報公開）
 - ・ 活用事例の紹介
 - マイ広報誌（Yahoo!ロゴ、福井県など自治体）
 - ・ データフォーマット事例の整理状況について
 - ・ 公開側の課題について
 - 更新の負担が大きい（更新頻度が高い）→手軽で効率的な更新方法は？
 - 様々なサービスで使われる行政イベント情報の出し方は？
 - ・ 活用側の課題について
 - 公開場所がバラバラ、フォーマットがバラバラ、更新頻度がバラバラ又は古い
 - 今後想定される、イベント情報を活用した魅力的なサービスとは？
 - それに合わせた情報の出し方（デファクトスタンダード）
 - ・ フォーマット共通化の方向性について
 - 基本項目と個別項目による構成
 - 既存データの互換性
4. VLED 自治体会員向けアンケート内容について
5. 今後のスケジュールなど

6. 議事録（敬称略）

（1）総務省挨拶

- ・ 今回は第 2 回ということで、引続き活発に議論をしていただければと思う。資料 2 で紹介する「第 4 回 IoT デザインハブ」は、総務省により、地域へ IoT を実装するネットワーク「IoT 官民ネット」という取組の 1 つである。今回はオープンデータをテーマに実施する予定である。民間ニーズと自治体が持っているデータの調整・仲介を行うべく、その試行的イベントの位置づけである。プログラムはパネルディスカッションとワークショップを用意している。この検討分科会の活動とリンクするところもあるので、是非ご出席いただきたい。（総務省）

（2）参加メンバーのご紹介

- ・ 事務局より資料 1 の説明。（事務局）

(3) 昨年度の振り返り

- 事務局より資料 2 の説明。(事務局)

(4) 今年度の検討方針案

- 事務局より資料 3 の説明。(事務局)

(5) 給付金情報について

- 事務局より資料 4 の説明。(事務局)
- 事務局より資料 5 の説明。(事務局)
- 事務局より資料 6 の説明。(事務局)
 - 今年度協議会として共通フォーマットを作成したが、今後見直したいと思っている。今のところ確実なのは、自治体ごとの ID を振ることを予定している。特に企業からのご意見を参考にさせていただきたい。(室蘭市)
 - 資料 6 に示されるような情報はデータとして公開されていないと思うが、実は自治体の中でまとめて管理されていたりするのかな。(大向主査)
 - 広島市では給付金情報の公開に関する検討はしていない。給付金情報はそれぞれの課が HP や紙媒体で情報発信を行っている状況である。既に給付金情報を公開している自治体のデータを参考にしながら、取組を進めることが想定される。その際、給付金情報は複数の課にまたがるが、とりまとめを行う部署、対象となる部署がわかっていないので、それをどのように探すかが課題である。(広島市)
 - 元々管理されている情報群ではないと思うが、これは室蘭市ではどのように整理されているのか。(大向主査)
 - 室蘭市を含め協議会の中でデータを作った時は、まとまったデータは無く、ゼロから作った。情報部門が各課に手当たり次第声をかけて情報を集めた。漏れもありえるので、一緒に取り組んだ自治体の中で、リストアップ結果を横並びにして不足を埋めていった。(室蘭市)
 - 福岡市は、間接と直接両方の補助金の調書情報を PDF で公開している。ボリュームがあるので、個人向けの情報として整理し直す作業が負担になるかもしれない。今後検討していきたい。(福岡市)
 - 今後民間でオープンデータ作成をお手伝いする時に、給付金情報を探す取っ掛かりとして予算の項目、条例・要綱からあたっていくことを想定している。そうするとどの位の給付金制度が見つかるか、分かれば教えていただきたい。(国際航業)
 - 条例はどの自治体も HP に出ていると思うが、要綱にまでなると出ていない自治体が多い。予算から拾うのが比較的確実と思われる。(室蘭市)
 - 給付金も法律・条例によるものと、市が独自にやっているものがある。法律や条例など外から見えるものは HP に載っている。市が独自にやっているものはアピールしたいので、主要なポイントは HP に載せている。(掛川市)

- 建築関係の補助金・助成金は多種多様であり、伊勢湾台風の補助金や、防空壕を埋める補助金・助成金があったりする。表に出てきにくい制度は、ヒアリング等を通じて発掘せざるを得ないかもしれない。そうすると担当者の能力に頼らざるをえなくなる。あるいは要綱を全て引っ張り出して、予算と比較して存在しているか否かのチェックをどこまでやるかという話になる。（国際航業）
- 確かにそういうものがあるかもしれないが、100%を目指すと進まないのでは、気が付いたところから出していき、気が付いた時点で追加していくのがよい。（室蘭市）
- そういうお話が聞けると対応しやすい。（国際航業）
- 今のところ、推奨データセットに追加してほしいデータがあった時に、どうやって進めていくべきか、働きかける方法があるのか知りたい。（大向主査）
- 推奨データセットへの追加に関しては、我々もフォーマットの種類を増やしていきたいと考えている。まだ手順が明確になっていないので、現在考えているところであるが、やり方は1つではないと考えている。まずは我々の方に連絡して頂ければと思う。追加すべきものがあれば拾っていきたい。（内閣官房 IT 室）
- 福井県は都道府県単位でフォーマット共通化に取り組まれているが、どういったプロセスで市町村をまとめられているのか。（大向主査）
- 福井県では、福井県電子自治体推進協議会があり、県内17市町が毎年集まって開催している。その中に公共データ民間利活用推進部会があり、県から「このようなフォーマットでデータを公開してみませんか」と提案を行い、項目等を会議で協議し、合意を得たら共通フォーマットで公開している。（福井県）
- それは1つの自治体が持ち込んで協議が始まるような形なのか。（大向主査）
- そのようにして取り組んでいるデータもある。中には、提案があったものの公開に至らなかったデータもある。（福井県）
- 今日は都道府県だと福井県と新潟県がいらっしゃるが、データを揃える活動をなさっているのか。（大向主査）
- 県と市町村の電子自治体推進協議会を活用するのが妥当だと思う。新潟県としてはまだ共通化を実際に行うところまでいっていない。勉強させていただき、情報を得ながら、そのような活動につなげていきたいと思っている。（新潟県）
- 出す側としてはフォーマットを揃えていかなければいけないし、使う側には何が重要なかが重要になってくる。室蘭市さんのお話にあったIDは自治体毎に付けるということか。（大向主査）
- 自治体内部での連番を考えている。全ての給付金を並べ、連番を振っていく。（室蘭市）
- 使う側にするとIDは重要なものだが、他に必要なものがあるか。（大向主査）
- 給付金情報を扱うサービスを持っていない立場からお話すると、webページの制度情報では、オープンガバメント推進協議会のフォーマット上、「その他」に振り分けられる項目が圧倒的に多い。「その他」は振り分けが難しいものを全て入れる場所ではなく、備考を入れるものだと認識している。そう考えれば、項目としてまだ足すべきものがあるのではないか。その上でこの

情報を使っていく中で重要なところは、給付金の支給条件に適合するかが分かるかどうかだと思う。ユーザとのマッチングが上手くできるような情報にする必要がある。これを見たユーザが自分に合うか合わないかが分かり辛いのではないか。書ききれないものは詳細を見てくださいという形で URL を載せているが、該当制度のトップページの URL だけが示されていると、また 1 から探さなければいけない状態になる。各項目に対する詳細 URL を示す方が、使う側にとっては便利になるのではないか。あとは、制度の更新情報も重要になってくるので、項目を別にして入れた方がいいと思う。(ヤフー)

- 更新情報は重要で、アプリケーションに再び取り込むべきかどうかの判断になる。ファイルそのものに対するメタデータも項目に含めると、自動の連携などがしやすくなる。(大向主査)
- 項目に対する書き方のルールが独自に定められていると使いづらいので、数値型、テキスト型等に統一した方がよい。また企業側が使うときには、データをシステムに取り込んで統計的に処理分析したり、自社で展開している情報配信のサービスの中に情報を組み替えて追加して使うこともあるので、データとしては項目を統合したりせず、できる限り分離させた状態で持っている方が助かる。(アスコエパートナーズ)
- ユーザが制度を発見できるための必要十分な情報が含まれているかが重要となる。また、サービスにおいて、どの部分をデータで支援できるかも今後考えていくと、更に良いデータになるのではないか。(大向主査)

(6) 行政イベント情報について

- 事務局より資料 6 の説明。(事務局)
- 事務局より資料 7 の説明。(事務局)
- 静岡市より資料 8-1 の説明。(静岡市)
- 静岡市より資料 8-2 の説明。(静岡市)
- ヤフーより資料 8-3 の説明。(ヤフー)
- 掛川市より資料 9 の説明。(掛川市)
- OCJ より資料 10 の説明。(OCJ)
- 事務局より資料 11 の説明。(事務局)
- 我々は、データを使う側なので、こういった形でユーザに届けるかが重要である。全ての情報をユーザに見せると何が自分にとって必要なものなのか分からなくなり、情報が増えるほどどうやって選ぶかの課題が出てくる。我々としてはそこを解決する 1 つの手段として AI を含めて検討しているところである。例えばイベント情報のカテゴリーで、スポーツという大きな括りで分けられても、スポーツは好きだけれど、スポーツが全部出てきても困る。よくあるスポーツイベントとして、ヨガ教室などの女性向けの情報があるが、スポーツという分類で区切ってしまうと、サッカーの好きな人がスポーツで検索すると、ヨガばかり出てきても見なくなると思う。その人が本当に欲しい情報を届けるためには、タグ付けすることもオープンデータ化するには必要になってくる。あとは、フォーマットを共通化してもらいたい。2020 年に向けてイベント情報が流通することで価値を生むと思う。(ジオルテ)

- 前回のご説明の時にもお話したが、イベントごとにデータ項目が多岐に渡る。どこまで共通化するかが課題である。我々は、季節イベントと通年のイベントがあり、季節イベントは大きく分けて7項目ある。それらDBの中身を共通化しようとするとうれいづかなくなる状態である。通年の方も項目が多く、様々なイベントを想定しながら項目が構成されており、検索を考えると項目を確保しなければいけない、一方で共通化を考えるとシンプルにしなければいけないので、兼ね合いが難しい。「その他」に逃げてしまうのも1つの手かもしれない。(日本観光振興協会)
- “フォーマット”の中にはいくつか定義があると思う。1つは入力用のフォーム、あとはメタデータなどのフォーマット、そしてイベント情報の全体を指し示すフォーマットがある。この3つを整理しながら進めていかなければ、今の状況だと混乱しそうである。(国際航業)
- どこまで統一するかは、非常に難しいが、ある程度の設計は必要になってくる。全ての項目を網羅するのは不可能であるので、検討していきたいところである。先ほど、OCJ がヤフーにデータを提供する際に、データをリッチ化し逆に項目を増やして提供していると説明があったが、興味深かった。実際に項目を増やすにあたってどういうコミュニケーションをされたのか。(大向主査)
- ヤフーマップは既存のサービスなのでフォーマットが決まっている。それをなるべく重視して、そこに近い形でデータを分割して落とし込んだ。設計に関する我々の考え方では、できるだけ詳細化する方針を取っている。一方、項目の共通化に当たって判断基準になるのは、それぞれの項目が具体的にどういうサービスでどこに配信されているかである。項目の標準化と併せて、利用状況も整理すると良いと思う。(ヤフー)
- 先ほど掛川市のところで、40 団体からイベント情報を集めているとあったが、どうやって集められたのか。(大向主査)
- 40 団体には ID を渡して自分たちで入れもらっている。(掛川市)
- 入力内容は既に統一化されているのか。(大向主査)
- 統一化済みである。(掛川市)
- 静岡市の発表に示された通り、API によりリアルタイム情報を配信するのは、ある種理想形だが、問題は API を出すと大量にアクセスが来た時にサーバに負荷がかかってしまう点である。それをどこまでサポートすべきか。実際のところはリスクや課題はあったか。(大向主査)
- サービス利用側にできるだけ多くアクセス対応いただくことを想定している。API としてデータ提供をするに当たり、10 秒間に 10 回までのアクセス制限を設けてクラウドを構築した。今後サービスが広がっていく時には、規模感を変えていかなければいけない。また静岡市だけで API 公開するのではなく、複数の自治体で公開した時にどうやって抱え込んでいくかが、次のステップとして考えるべき課題である。(静岡市)
- 大規模配信に対して民間の事業者が持っているインフラ等をどう活用するか、議論が必要であるし、面白い取っ掛かりになると思う。(大向主査)
- 静岡市の事例は、毎年発展していて勉強になる。発展系としてヤフーと連携することによる官民データの取組についても勉強させていただいた。交通系や気象系の協議会も立ち上がっており、他の取り組みや分野と連携することによってデータ配信も活性化されていく。データ連携の可能性を感じた。(日立製作所)

- 内閣官房 IT 室より「官民ラウンドテーブル」の開催結果概要を説明。(内閣官房 IT 室)
- 事務局より資料 12 の説明。(事務局)
 - 給付金情報のアンケートの中で、フォーマットとの対応状況を回答頂く設問では、給付金制度として何を選んだらいいのか回答しづらいのではないだろうか。また、フォーマット共通化に必要な施策は複数回答が妥当ではないか。(室蘭市)
 - 複数回答あるいは、順位をつける形式のほうが良い。(大向主査)
 - 給付金制度はこれからフォーマットを作るので、他の団体でも同じような情報をお持ちかどうか調査するという点で参考になるアンケートだと思う。行政イベントについては、既に内閣官房の推奨データセットで定められていて、その情報を持っているかどうかを改めて調査するよりは、推奨データセットをベースにさらに他のイベントに対応するための内容としてほしい。推奨データセットで定めていない情報まで整理する必要があるのかまとめていただき、それに基づいて各自治体で持っているか否か、またフォーマットを定める必要性を感じているか等をアンケートに含めて欲しい。(総務省)
 - いただいたご意見を基に修正を行う。(事務局)

(7) 今後のスケジュールなど

- 第 3 回は 2 月 26 日に開催する。(事務局)

以上